

中央公論

媒体資料

2025年7月更新

月刊『中央公論』は現存する日本最古の雑誌です。1887（明治20）年に『反省会雑誌』として創刊、1899（明治32）年に『中央公論』と改題され、現在に至ります。

フェイクニュース、エコーチェンバー、フィルターバブル……。SNSの発達などもあり、近年の言論空間では真偽不確かな情報や極端に偏った言論が飛び交うとともに、自分と似た意見ばかりが目に入る環境となっています。

月刊『中央公論』もそうした社会状況から無縁ではありませんが、言論の過激さで競うのではなく、興味深い特集テーマや信頼できる論者のラインナップによって手に取ってもらい、社会に良い影響を及ぼすことができればと願っております。

また、歴史分野でヒット作を連発している中公新書の蓄積を活かしながら、日本史や世界史についての特集も手がけ、確かな教養を求める読者の声に応えて参ります。加えて、紙の雑誌のみならず電子版、そしてウェブサイト「中央公論.jp」も展開して多様化する読書スタイルに対応します。

2027年の創刊140年を見据え、チャレンジを続ける『中央公論』をどうぞよろしくお願いいたします。

『中央公論』編集長 田中正敏



創刊138年の総合論壇誌「中央公論」の魅力

中央公論

総合論壇誌として、あらゆる分野にわたり優れた記事を提供

創刊は1887年（明治20年）。『中央公論』の前身『反省会雑誌』を京都西本願寺普通教校で創刊したのが始まりです。時代におけるオピニオン・ジャーナリズムを形成する主導的役割を果たしてきました。

毎号に刻み込まれたその歴史は、時代の潮流におもねることなく、この国が本当にとるべき姿を映し続けてきた歴史そのものです。

- 創刊：**1887年**（明治20年）
- 印刷証明付部数：**17,000部**（2025年1月～3月）
- 発売日：毎月10日 ■定価：1100円（税込）



2014年6月号「消滅する市町村523全リスト」は地方自治体や大学で話題になった。

「中央公論」の歴史の歩み

1886年（明治19年）4月 京都西本願寺普通教校内に『反省会』を結成し創業。
1887年（明治20年）8月 『反省会雑誌』（中央公論の前身）を創刊。
1892年（明治25年）5月 『反省会雑誌』を『反省雑誌』と改題。
1899年（明治32年）1月 『反省会雑誌』を『中央公論』と改題。
1905年（明治38年）11月 200号記念号発行。夏目漱石「權露行」、幸田露伴「付焼刃」、泉鏡花「女客」などを掲載。
1911年（明治44年）11月 谷崎潤一郎の小説「秘密」を掲載（谷崎、本誌初登場）。
1912年（大正1年）9月 滝田袴陰、『中央公論』主幹となる。
1914年（大正3年）1月 吉野作造「学術上より観たる日米問題」を掲載（吉野、本誌初登場）。
1929年（昭和4年）4月 春季特別号に、島崎藤村の小説「夜明け前（序の章）」を掲載。
1929年（昭和4年）10月 500号記念号発行。谷崎潤一郎の小説「三人法師」を掲載。
1944年（昭和19年）7月 中央公論社と改造社が情報局に召致され自発的廃業を勧告される。
このため『中央公論』は7月号をもって休刊。

1946年 1月 『中央公論』戦後再建第1号を発刊。
1965年 5月 創業80周年を記念して、**谷崎潤一郎賞**、吉野作造賞の創設を発表。
1970年 12月 1000号記念号を発刊。文化論に関する石川淳と三島由紀夫の対談を掲載。
1985年 11月 創業100年記念号を発刊。立花隆の大型ノンフィクション「脳死」を掲載。
1999年 2月 中央公論新社として再スタートを切る（読売グループとなる）。
1999年 12月 吉野作造賞を読売論壇賞と統合し、「**読売・吉野作造賞**」を創設。
2014年 6月 6月号「**消滅する市町村523全リスト**」が話題に
2020年 Web版「**中央公論.jp**」を大幅リニューアル
2024年 6月 10年ぶりに「**消滅する市町村744全リスト**」を発売し完売。



●谷崎潤一郎賞

明治・大正・昭和を時代を通じて幅広いジャンルで活躍した谷崎の業績にちなみ、代表する優れた小説・戯曲を顕彰する。1965年創設。



●読売・吉野作造賞

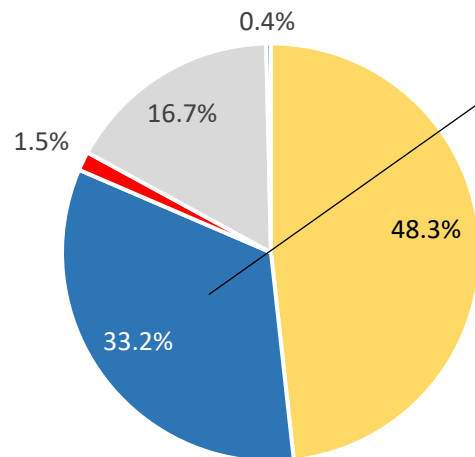
政治・経済・社会・歴史・文化の各分野における優れた論文、および単行本を顕彰する。日本を代表する論壇の賞として評価されている。

「中央公論」 読者属性

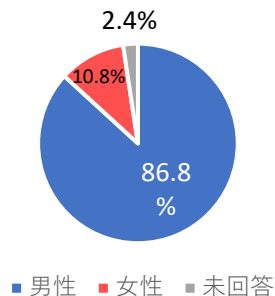
中央公論

購読者属性

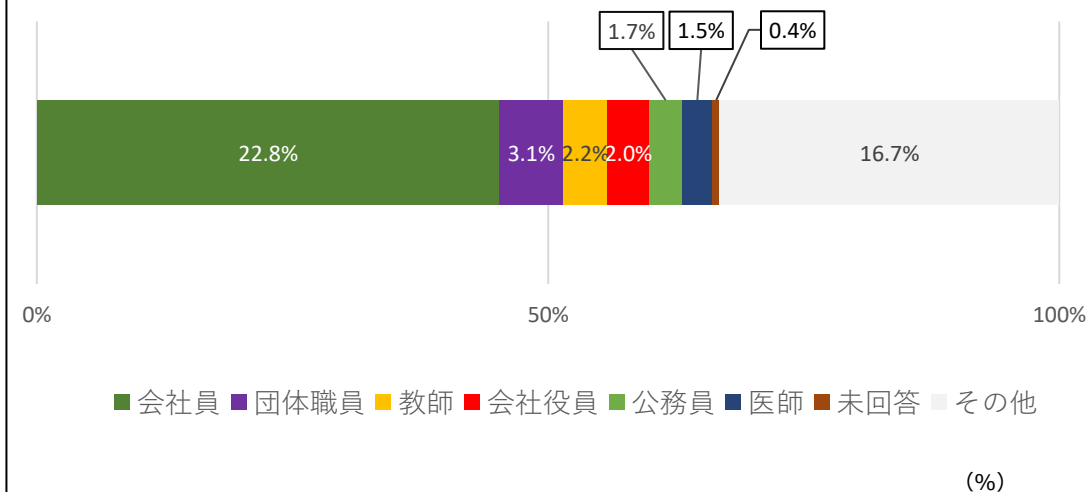
■ 年金生活 ■ 働いている ■ 学生 ■ その他 ■ 未回答



性別割合

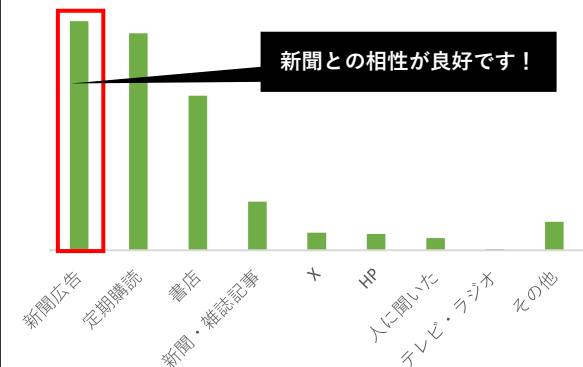


就業者の職種内訳

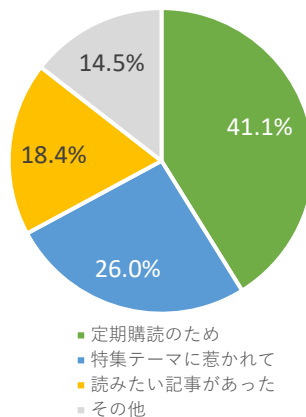


タッチポイント

新聞との相性が良好です！



購入動機の内訳



Q. どういう書店で良く売れる？

A. 『中央公論』は霞が関近辺でよく売れています

国会議員や官僚といったパワーエリートを読者も多く抱える『中央公論』での誌面展開は、たいへん影響力が大きいです。

読者の中心層は、団塊世代。経営者や管理職といった社会的地位の高い人が特徴です。

それは、『中央公論』の売り上げ上位店にも表れています。

〈霞が関近辺で良く売れている書店〉

成文堂国会議事堂店/ジュンク堂書店プレスセンター店/至誠堂書店霞が関店/虎ノ門書房本店/友愛書房など

〈その他の売り上げ上位店〉

丸善[丸の内本店], 紀伊國屋書店[新宿店], 紀伊國屋書店[梅田本店], ブックファースト[新宿本店, 有隣堂[横浜駅西口店], ジュンク堂書店[池袋本店], 三省堂書店[池袋本店] など

学者、知識人、文学者、エッセイストから首相まで
各界のオピニオンリーダーが毎号、多数登場。
タイムリーに時代を映す特集を掲載しています



本誌掲載をきっかけに書籍化した事例



タイアップ誌面事例

クライアント：広島大学様 4C6Pタイアップ 「特別企画 大学探訪」 (2024年11月号掲載)

特別企画 大学探訪

2015年、広島大学の第12代学長に就任した越智光夫さん。それから2期8年間で、「100年後にも世界で光り輝く大学へ」というキヤッチフレーズのもと、何事においても短期のみならず長期のスパンで考えてきました。厳しい社情勢のなかでも「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人の育成」をスローガンに、社会に貢献できる学生の育成を行う過程で、今後の展望などを伺いました。

学生の声を受け止め、
十分な支援体制を整える

近年のコロナ禍、ウクライナ侵襲、地球温暖化などをベースに学生達はどのようなことを考えているのかを知り、そしてその考えを世界に向けて常に発信していくことを重視しながら、学生を育成する必要があると

考えています。

本学は「光り輝く大学」を目指していますが、国内外における幾つもの大学のランキングでは多くが10位前後です。しかし、それに見合った評価をいただけておりません。「真面目で地味、大人数の学生が多い。光り輝くものが見受けられない」などの厳しい声も聞かれます。

では、光り輝くものとは何か。直近では、2022年度「持続可能性」に寄与するキラルノート超物質ポイントの発表が文部科学省による世界トップレベルの研究拠点プログラム、WPIの拠点の一つに選ばれました。

新規採択は本学を含め大阪大学、慶應義塾大学の3つのみです。宇宙や生命、物質科学、工学をはじめ多分野の研究が内外から参集し、基礎科学とともに気候変動問題への貢献も期待されています。

本学には光り輝くものがまだまだあります。優秀な教員や学生に由来しただけでなく、もともとユニークなところを上げるべく学長として一層発信していきたいかならないかとも思っています。

さて、2期8年間で印象深かった出来事は、西日本豪雨災害と新型コロナウイルス感染症です。

2018年7月の豪雨災害では、被害の現状に加え、授業の臨時バスの運行、留学生に対して必要と思われる情報を直ちに緊急メッセージとして発信しました。留学生の中にはハラル食品を必要とする人もいましたので、ハラルの食事や食材を提供、それに要した費用は大学の資金とともに、学内募金の約640万円を活用しました。そして豪雨から5日目には、専門家による豪雨災害調査団を結成、被害状況

特別企画 大学探訪

広島大学

100年後も光り輝き、
世界へ発信し続ける大学へ。

越智光夫

広島大学学長

「100年後も光り輝く大学へ」というキヤッチフレーズのもと、何事においても短期のみならず長期のスパンで考えてきました。

学長に「中央公論」編集長が直接インタビューを実施し、紙面に掲載しました。

中央公論の確かな編集力・取材力を活かし、
読者に届く良質なタイアップ記事を制作いたします。

特別企画 大学探訪

広島大学

100年後も光り輝き、
世界へ発信し続ける大学へ。

越智光夫

広島大学学長

「100年後も光り輝く大学へ」というキヤッチフレーズのもと、何事においても短期のみならず長期のスパンで考えてきました。

特別企画 大学探訪

広島大学

100年後も光り輝き、
世界へ発信し続ける大学へ。

越智光夫

広島大学学長

「100年後も光り輝く大学へ」というキヤッチフレーズのもと、何事においても短期のみならず長期のスパンで考えてきました。

Webサイト「中央公論.jp」でインターネットでの発信にも注力

中央公論.jp



<https://chuokoron.jp/>

QRコードを読み込んでいただくと、
ご覧いただけます



創刊130年超、日本最長寿雑誌『中央公論』がWebの場で生み出す新たな世界。幅広い知識人、論客、各界のキーパーソンを迎え、**政治、経済、国際情勢、教育、医療、科学、文化**など、変化の激しい時代を生き抜くために**最先端の「知」と歴史の教訓**をお届けします。

【広告料金表】

分類	メニュー	サイズ	グロス料金（税抜）	備考
表まわり	表 4	天地194×左右135	¥1,000,000	
	表 2	天地210×左右145	¥800,000	
	表 3	天地210×左右145	¥680,000	
巻頭オフセット	4C1P	天地210×左右145	¥800,000	
	1C1P	天地210×左右145	¥470,000	
記事中立版	1C1P	天地183×左右118	¥320,000	枠付
	1Cタテ1/2P	天地178×左右55	¥190,000	枠付
	1Cヨコ1/2P	天地84×左右19	¥190,000	枠付
	1Cタテ1/3P	天地178×左右32	¥120,000	枠付
	1Cヨコ1/3P	天地54×左右119	¥120,000	枠付
	1C1/4P	天地84×左右55	¥83,000	四つ割り枠付
	1C1/6P	天地54×左右55	¥56,000	枠付

※タイアップの場合、別途制作費として200,000円（1Pにつき・税別）申し受けます

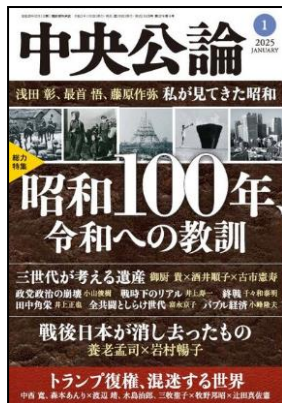
※表記額はグロス料金です

※Web転載をご希望の場合はご相談ください

2024年12月号



2025年1月号



2025年2月号



2025年3月号



2025年8月 最新号



2025年4月号



2025年5月号



2025年6月号



2025年7月号



お問い合わせ

株式会社 中央公論新社
雑誌・事業局 ビジネス部

E-Mail cbkoron@chuko.co.jp
TEL 03 - 5299 - 1820

〒100-8152
東京都千代田区大手町1-7-1 読売新聞ビル19階

中央公論
中央公論.jp